

한청통신

韓 青 通 信



在日韓国青年同盟 機関紙

2013 年 秋 号



歴史をつないで青年が作る 平和と統一へのビジョン

夏期講習会からハナフェスティバルへ。青年からはじめよう、平和と統一への実践！

04



夏を駆け抜け、実りの秋へと！
夏の報告と目前に迫った 10.4 フェスタに迫ります

02

【全国活動紹介】

各本部の活動と取り組みを紹介

06

【停戦協定 60 年 特別企画】 訪れない戦後～朝鮮戦争
Vol. 3 停戦協定と朝鮮半島

07

国情院の謀略を断固糾弾する！

第2ラウンドに突入した「国情院事件」を【韓青視点】で解説

08

【歌い継ぐ闘争の歴史】『노래여 날아가라』

平和の風に乗れ 歌よ、はばたけ

全国活動紹介



アンニョンハセヨ、大阪府本部です。

この間大阪府本部も、サマーキャンプにむけて熱心に準備して臨みました。今回、特に力を入れたのは、文化発表のノレ。なにを隠そう、いまの大阪

メンバー、音楽経験者が多いのです。歌、ギター、ピアノと、それぞれ得意分野を生かして、かなり質の高い文化発表にすることができたと思います。好評のうちに発表が終わり、帰路についていたところ、なんと 8/25 の「ハナ・マダンあまがさき」に出演要請が！1 回限りの復活ライブのつもりでしたが、活動を継続することになりました（笑）なんとも、嬉しい誤算です。

キャンプ後の取り組みとしては、9/15（日）16（祝）で韓青大阪お泊り合宿を敢行！和歌山の海からほど近い「有田オレンジユースホテル」で、10.4 記念行事に向けたノレの集中練習をはじめとして楽しく中身の濃い企画を行いました。これからも台風にも負けない団結で、大阪府本部、頑張っていきます！

大阪

京都

韓青京都では 6 月 22 日、「6・15 共同宣言と 10・4 宣言の実践、平和協定締結」を掲げて久しぶりとなる街頭宣伝活動を行いました。ビラの内容は対話情勢に移ろうとする朝鮮半島情勢、場所は京都市の繁華街である京阪三条駅前の交差点でした。

やってみて思った事ですが、予想以上にビラを貰ってくれる方が多く、若干ではありますが興味をもった方に質問される事もありました。このような外部への発信が久しぶりだったため凄く新鮮な気持ちになり、「興味を持ってくれる日本人の方も結構いるんだなぁ」と思いました。また、同時に勉強が足りないなとも感じました。次回の街頭宣伝活動の時には、実務的な段取りも大事ですが、まず何より心の段取りもしっかり準備した上でやるべきだと痛感しました。失敗も色々ありましたが、私も含め韓青京都にとっ



てとても良い経験になりました。

今後はまだ見ぬ同胞青年とともに、内部発信だけではなくて外部を巻き込みながらこの京都の地で頑張っていきます。



韓国語教室

「ムグンファ」

見学・体験レッスン随時受付！

担当：金梨恵 (私・ハ)
080-6510-1973

韓国語教材専門店 **ハングルの森**



korean textbook shop

한글의 숲

<http://www.rakuten.co.jp/eac-hg/>

8 月 25 日（日）に「第 4 回 ハナ・マダンあまがさき」を開催しました！

当日の午前中、記録的な大雨に見舞われ、強気な兵庫県本部の面々の脳裏にもさすがに“中止”の二文字が頭をよぎりました…。準備は予定より 3 時間以上遅れてスタート

したもの、午後には先ほどまでの雨が嘘のように晴れ渡り、無事にマダンを開催することができました。

ハナ・マダンあまがさきの場で、私たち青年の想いを地域の方々に伝えるために、今年は朝青兵庫県本部の青年たちと、祖国統一への願いを込めた共同アピール、そしてサムルノリの演奏を行いました。私たちの想いを、地域の皆さまとだけでなく、晴れ渡る青空の中、風に乗せて、国内で闘う全ての人々に届けられたような気がします。

当日はたくさんの方々に来場していただき、また、実行委員会を通じてたくさんの仲間と出会うことができました。縁に感謝し、下半期も元気一杯駆け抜けます！！

兵庫





アンニョンハセヨ！
韓青愛知です♪
8月2日～8月4日
で行われた、サマー
キャンプの報告をし
たいと思います。今
回は、初の試みとな

るフィールドワーク形式のキャンプで、三重県熊野市で開催されました。当時、紀州鉾山で労働していた在日朝鮮人の慰霊碑と資料館を見学しました。また、民族文化体験のワークショップやキャンプファイヤー、バーベキュー、サマーキャンプのメインイベントとなる文化マダンと盛りだくさんの内容でした。

愛知県本部は、文化マダンでトリとなるプンムルをやりました。野外で行うというこれまた初めての試みで、熱中症になりそうになりながらも一生懸命練習の成果をだしました(笑)最後の感想では、盟員の素晴らしい決意なども聞くことができ、これからも韓青愛知は新しい仲間とともにますます盛り上がって行きたいと思えます。



ブラック企業も真っ青(笑)の活動量であった東京本部の2013年夏。猛暑にも負けずに20回目を迎えた統一マダン東京の成功をはじめ、多くの成果とともに怒涛の夏を駆け抜けました。そして8月末、夏の最後に納涼祭を開催して、夏の疲れを癒しました。この間は残念ながら帰省だったりで予定の合わないメンバーも多い中での開催となりましたが、じっくりたっぷり話をして、「もっともっと活動を楽しみたい!」という総意に達しました。仕事が忙しかったり毎週のウリマルにはなかなかメンバーがそろわなかったり、夏のキャンプにも調整したけど参加できなかった人もいます。でも振り返ると、レクに開講式に学習会に楽器練習にマダンにウリマルの後の飲み会に…いろいろな事がありました。数か月前に初めて顔を合わせたとは思えないほど、みんななじんでいます(笑)

その時その時がかけがえない時間だということを胸に刻みつつ、これからも東京本部から「楽しい」を発信して活動していきます!



アンニョンハセヨ。
韓青三重です。
サマーキャンプを終えて新しい受講生が増えました。一人仲間が増えると支部の雰囲気もガラッと変わり、にぎやかで非常に楽しい空間になりますね。写真はウリマル授業後それぞれが韓青通信や民族時報、四日市情報誌を読み、気になる情報を共有しているところです。



全国の仲間の状況を見て、私達も負けてはならないと意気込んでいます。
韓青三重は10.4記念行事に向けて一人でも多くの在日同胞青年を引き連れて行けるように頑張っています。



今後様々なサークルなどを作り仲間を集めて行きます。

10.4 記念行事で全国の仲間と会える事を楽しみにしています。

HANCHUNGで韓国語

地域	本部	支部
東京地域	本部: 千代田区神田佐久間町 3-21 4F 各電鉄 秋葉原駅 徒歩 5分	生野支部: 大阪市生野区豊谷 3-13-6 JR 桃谷駅 徒歩 10分 地下鉄 今里駅 徒歩 10分
神奈川地域	本部: 横浜市神奈川区青木町 2-1-207 京急 神奈川駅 徒歩 10分 各電鉄 横浜駅 徒歩 10分	市橋支部: 東大阪市岸田西 1-3-8 近鉄 市橋駅 徒歩 10分 地下鉄 花園駅 徒歩 10分
愛知地域	本部: 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 5F 各電鉄 鶴舞駅 徒歩 10分	尼崎支部: 尼崎市七松町 3-3-13-1F JR 立花駅 徒歩 7分
三重地域	本部: 四日市市本町 8-16 山下ビル JR 四日市駅 徒歩 2分	広島支部: 広島市西区楠木町 1-7-21-203 JR 柳川駅 徒歩 5分
京都地域	本部: 京都市下京区西河原通堀小路下 キャンパスプラザ京都内会議室 各電鉄 京都駅 徒歩 5分	

※ 所在地 交通アクセス

全国 8 都市 9 教室!

韓青韓国語教室の ▶▶▶ ☎ 0120-734-101
申込み・問合せは ▶▶▶ ✉ chuo@hanchung.org



「한마디」とは「一言」という意味です。韓青全国の盟員が普段活動しながら話している内容やつぶやきをざっくりばらんに紹介していきます。



キムスト兄さん

キャンドルに火を灯せ!
ソウル広場は燃えているぞ!



LIN_osaka

開城も再開合意したみたいやね。



渾身の「倍返しだ!」

学習会しんどいけど、終わったら
なんだかんだで得たものがあつた
気にさせるハンチョンのツンデレ
感に参ります...



ラブできそう No.1

愛知は今日会議のあと世界一うまい
ラーメンをくってきませ〜



仏像マニア in 尼崎

近畿地協は、ものすごい人で溢れ
かえるJR大阪駅前で街頭宣伝で
ーす。



俺はまだ本気を出していないだけ

9.29の集会の時に律動やる時の曲
の曲名って何でしたっけ?

52013→10.4

夏を駆け抜け、飛躍する秋へ！



朝鮮人強制連行・強制労働の現場であった紀州鉾山で休憩し学ぶことで、消されようとする歴史を掘り起こし、見つめ、つながることができた。参加した一人ひとりが歴史をつなぎ、平和を作っていくことの意味を深く理解し、その思いをジャンプで表現した。(左写真)

歴史をつないで、平和を作る 第47回全国夏期講習会—SummerCamp2013

報告：韓青中央／感想：各地域の青年から

三重県熊野市紀和町にて8月2日から4日までの3日間、「第47回韓青全国夏期講習会—サマーキャンプ2013」を開催しました。今回の移動では、先輩方にバスを運転していただくなど、先輩方の愛情を一身に受けての講習会スタートとなりました。開会式では司会を務めた大阪府本部プロデュースの「奇抜で愉快なオープニング」、また三重県本部による「Mステ=民族統一ステーション」というあの名歌番組のパロディ仕立てで行ったノレ指導で、のっけから全体は大盛り上がり！

その後、炎天下の中、紀州鉾山での朝鮮人強制労働の跡地を巡る歴史探訪フィールドワークに出かけ、差別の実態を全体で共有しました。

初日の夜に行われたグループ別企画では、Aグループ対象に、権理恵兵庫委員長が「差別の構造？？」という題目で、植民地時代から現代に至る朝鮮人に対する構造的差別を歴史的に紐解き、今を生きる青年たちに「まず、どう生きるか」を、そしてBグループでは、金承民中央副委員長が「祖国は今、燃えている！立ちあがろう、若き獅子たち！」という題目で、自主・民主・統一の観点で情勢を読み解くことの重要性や、現情勢における「国家情報院問題」、韓青幹部としての人生観・同志間

係とは何ぞや？を語りました。

また、就寝前には愛知県本部によるレクリエーションが行われ、ジェスチャーゲームやアイス取りゲームで大盛り上がり。班の団結が一層深まった夜となりました。

二日目には文世賢中央委員長の全体講演「一人が二人、二人が四人、四人が八人・・・そして、世界は変わる」が行われ、在日同胞の「生」を阻む朝鮮半島を取り巻く対立構造を解き明かし、構造変革の具体行動として10.4宣

言を青年レベルで実践していこうというメッセージを参加者たちに訴えました。

班別討論ではこれらの講演をもとに、差別問題から本名使用、民族的に生きるの意味、日本と祖国そして米国の間に横たわる社会構造、祖国統一の重要性など、様々な内容の議論を忌憚なく展開しました。

また今回は、特別企画としてワークショップが盛り込まれ、楽器（チャンゴ）・工作（燃灯づくり）・歌と舞踊（民謡とオッケチュム）といったクラスに各班班員が分かれ、民族文化に親しみました。



天高く舞い上がっていききました。

そして、キャンプもいよいよ大詰めの開会式。参加した青年の大部分が、積極的に民族的に生きていきたい、歴史を学びたい、より主体的に活動をしていきたい、など力強い決意を全体で共有し、各地方での日常活動への参加を約束し、そして、9月下旬に東京で行われる10.4宣言支持青年集会で再び会うことを約束しながら、幕を閉じました。

初めての挑戦、“緊張と刺激”の先に成長を実感

2013年、自身2回目のサマーキャンプ。今回を一言で表せば、“緊張と刺激あふれるキャンプ”でした。キャンプで特に“緊張”した理由は、今回初めて司会を担当させていただいたからです。

自分なりに考えた奇抜な演出やスライド映像が、参加者の皆さんに好評な様子を見て、準備を重ねた甲斐があったと思います。

そして、今回のキャンプで特に“刺激”

を受けた3つの場面。それはフィールドワーク、文化マダン、個性豊かな班員が集まった班別討論でした。今回のキャンプ開催地が、かつて朝鮮人労働者たちが辛い思いで働いてきた場所であることは、日本の歴史上公にされていないものの、知っておかねばならない歴史だと痛感しました。

文化マダンでは、暑い気候をよそに、全国各支部による熱い



文化発表。本番に向けて着々と取り組んできた成果がしっかり出ていることがわかりました。

そして、特に班員との交流は、キャンプに参加する意義と、自分の生き方に真剣に向き合うことの大切さを教えてくれました。(大阪、イ・チェハ)



大阪府本部の民衆の歌（上左）、朝鮮人追悼碑を訪ねてフィールドワーク（上右）、大好評「Mステ」のノレ指導（左）、幻想的な美しさだった燃灯（中）、10.4での再会を誓い合って仲間を見送る（右）

成長こそが一番面白く、充足感につながる

今回サマーキャンプにおけるメインイベントのフィールドワークでは、英国人との比較という形で露骨な差別が目の前にあるにもかかわらずぼんやりとしてしまう、強烈に意識できない社会の中を生きていることを実感しました。そこで全身を使って学んだ、インプットしたことを、アウトプットしていきより深く理解できる副班長として参加できて良かったと思います。



班でカレーを作って昼食（左）、愛知県本部のブームル（上右）、文化マダンの最後の群舞、盛り上がります（下左）

キャンプ自体のプログラムもそうですが、自分自身もチャレンジすることが多く、キャンプが始まる前の準備段階では不安と期待感でいっぱいでした。しかしそれすらも、何度も繰り返しているうちに「慣れ」を感じていたキャンプに対してまた新鮮さを感じられました。そして何においても常に自分が変わっていく、成長していくことが一番面白くて、満足できることなんだと改めて思いました。

（東京、ソン・トンギ）



民族的に生きることに向き合うために

안녕하세요. 今回初めてサマーキャンプに参加させて頂き、フィールドワーク・レクリエーション・先輩方の講演等さまざまな活動がありましたが、僕が一番印象に残ったのは班別討論でした。僕は2班でしたが、一人ひとりの在日韓国人としての意識が高く大変衝撃を受けました。

僕はこれまで、自分の人生の中で民族的に生きることについて深く考えたことはありませんでした。同じ在日韓国人の仲間が一つの場所に集い・学び・

語り合う中で、自分も韓青でもっと民族的に生きることに向き合っていたいと思いました。

先日の 8.15 集会で、ある先輩が人生をかけて運動することが楽しいし、それが生きがいだと言っていました。僕もまだまだわからないことも多く未熟ですが、まずは一生懸命行動してみたいと思います。これからもよろしくお願いします。（愛知、イ・ユジ）



フィールドワークで真剣に学ぶ（左）、チャンゴのワークショップで民族を体感（右）

再び「在日」である自身を取り戻す出発点として

8月に韓青のサマーキャンプがあるから行こー！一か月前に韓青三重の後輩からメールが来て、反射的に行くと返信したことが、韓青に再び関わるきっかけでした。

7年ぶりの韓青参加だったので、人見知りな僕にとっては、当日とてもプレッシャーでしたが、覚えてくれた人たちもいましたし親しく接してくれる仲間もできました。民族楽器にも触れることができ、夏らしくキャンプファイヤーもできて、充実した3日間を過ごせました。

一方、3日間を通じて毎度面食らってしまっただのが、僕自身が在日であるとい

う意識の皆無さでした。まず、挨拶や声掛けでウリマルを使えなくなっていたこと。言葉が出てこず、日本語で挨拶すると言われたことをオウム返しするかでした。もう一つは、自分の名前さえハンゲルで書けなくなっていたこと。

学生の頃から在日で生きていくことについて、毎日と言っても過言でないほど意識考えてきましたが、上京をきっかけにその機会は薄れ、次第に在日であることを忘れてしまったかのように社会環境に馴染み生活していました。

昔の美化意識のせいか、どちらかというと後輩たちに語り論すんだという気持ち

が正直あり、その反動でとても情けなくまた恥ずかしく感じた3日間でもありました。

まず言葉を覚えること。それを通し韓青に関わることで、在日である意識を継続させていくこと。キャンプの後これから自分がしなければいけないことと考え、ウリマル教室に出席することにしました。

今後も韓青活動に参加していき、自身のアイデンティティを再確立し、在日問題について学び考え、成長していきたいと決意します。（三重、ソン・サンオ）

兵庫県本部の独創的なソルチャンゴ（右中）、ご当地三重県本部の追真の構成劇（右下）



ハナフェスティバル2013

9月29日（日）午後16時～18時

会場：おちまちパンダ広場

入場無料！

主催：ハナフェスティバル2013実行委員会

連絡先：03-5823-0815

e-mail: chuohanchung.org

在日同胞青年が作る平和と統一、未来へのビジョン

青年が平和と統一へのメッセージを発信！9/29に東京でピースコンサートを開催！

来る9月29日（日）の午後4時から6時、東京都台東区のJR御徒町駅南口・おちまちパンダ広場にて、『ハナフェスティバル2013』が開催されます。主催は同実行委員会です。

ハナフェスティバル2013は、朝鮮半島の平和と統一、東アジアの和解と協力をテーマに、在日コリアン青年学生が中心になって開催する野外文化イベントです。当日は韓青によるサムルノリやアンサンブル、民族舞踊に統一への願いを込めた歌など、多彩な文化公演を企画しています。

目玉企画として、日本でも根強い人気を誇るイ・ガンソク／イ・ヘジンによるミニコンサートを開催中！クライマックスには、夕暮れの薄暮の中みんなペンライトをかざして幻想的な雰囲気をかもしだします。当日は入場無料です。ぜひお誘い合わせのうえ、ハナフェスティバル2013にお越しください。

【ハナフェスティバル2013実行委員会】
TEL. 03-5823-0815
MAIL: chuohanchung.org

【停戦協定60年 特別企画】

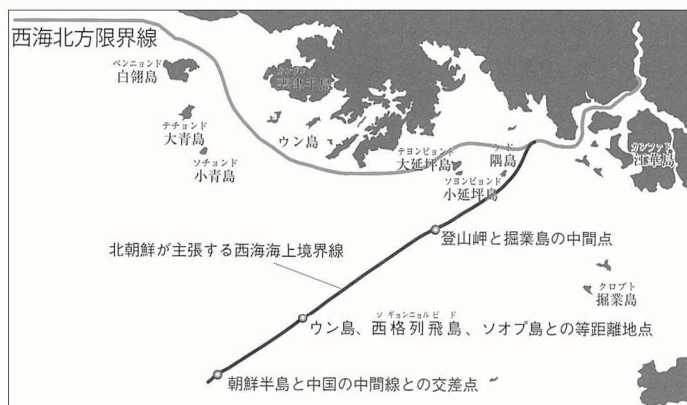
訪れない戦後～朝鮮戦争

Vol.3 停戦協定と朝鮮半島（最終回）

核心項目を無視し続けるアメリカ

停 戦協定は1953年に締結され、第1条から第5条の全63項目で構成されています。特に戦争誘発要因を除去して朝鮮半島の平和定着のために合意した最も核心的部分は、次の2項目に集約されています。

一つは13項3「朝鮮国境外から増援・増員する軍事人員を入れることを停止する」および同4「朝鮮国境外から増援する作戦飛行機・装甲車両・武器および弾薬の搬入を停止する」であり、もう一つは60項「朝鮮問題の平和的解決を保障するために双方軍司令官は、双方の関係各国政府に停戦協定が調印され効力を発生した3ヶ月以内にそれぞれの代表を派遣し、双方の二級高い政治会談を召集し、朝鮮からのすべての外国軍隊の撤収および朝鮮問題の平和的解決などの問題を協議することを、これに建議する」です。



▲南北軍事衝突の火種であるNLL

これらを協議する政治会談は、紆余曲折の末に1954年4月にジュネーブで開催されましたが、内容のある合意は導けませんでした。これが朝米間の平和協定締結のための最初で最後の政治会談となっています。

そしてアメリカはこうした規定にも関わらず、停戦協定締結直後である10月1日、韓米相互防衛条約を締結して米軍の韓国駐屯を合法化し、その年の秋には各種軍事装備を韓国に持ち込みました。1958年には米軍が公開的に核兵器を韓国に搬入し、その数は1,000発に上りました。1992年には当時のブッシュ大統領がアジアから戦術核兵器を完全撤収したと公言しましたが、その事実を誰も、どの機関も確認したことはありません。

北朝鮮からは1958年10月に中国軍が完全撤収しています。

そして韓米軍は合同軍事演習を毎年開催し、特に今年行われたキー・リゾルブとフォール・イーグル演習は60日間も続けられ、韓米軍20万人とともに核兵器を積載した航空母艦までもが動員されました。また停戦協定では海上の軍事境界線を決定しませんでした。アメリカは西海上に一方的にNLL（北方限界線）を設定し、今も南北軍事衝突の火種になっています。

10・4宣言を履行して平和協定転換を！

朝 鮮戦争は休戦状態であり、言わば南北および朝米は今も交戦状態にあります。こうした危険な状態を解消する方が10・4共同宣言には含まれています。第4項には平和協定締結に関して、第5項では海上の開城工団といえる「西海平和協力地帯」の創設を唱っています。まさに南北共同繁栄のための知恵が詰まっているといえます。

朝鮮半島の軍事的緊張の根本原因である休戦状態を終結させるためにも、6・15共同宣言、10・4宣言の誠実な履行が求められています。



▲2007年10月の南北首脳会談

한정 시점으로
현 정세를
해설합니다

韓青視点

国家情報院（国情院）が昨年の大統領選挙時に不法介入した事件を真相解明するための国会の国政調査は、報告書を採択できずに終了してしまいました。そしてその調査過程において新たに浮上した疑惑とともに、事件当事者たちの厚顔無恥な態度や妨害とも言えるセヌリ党の姿勢が、国民の怒りをますます増大させてい

ます。

窮地に立たされた国情院は、維新独裁時代をほうふつとさせるねつ造事件を仕上げ、強行突破でこれを乗り切ろうとしています。

国情院事件の解決を求める闘いは激突の第2ラウンドに突入しました。

国情院の謀略を 断固糾弾する！

朴政権は維新体制を復活させるな！
国情院こそが民主共和国・大韓民国の敵だ！



朴槿惠大統領と国情院を結ぶ 疑惑のライン

国情院事件の核心人物4人は元・判・金・世（元世勲、金用判、金武星、権寧世）と呼ばれています。

元世勲・前国情院院長は、文在寅候補と民主党への誹謗中傷を通じたネット社会での世論操作を命令し、金用判・前ソウル警察庁長官は明るみになったこの陰謀事件をもみ消した人物とされています。

金武星・セヌリ党議員と権寧世・駐中大使は、「朴槿惠候補選挙対策委員会」でそれぞれ総括本部長と総合状況室長の立場から、国情院に大統領選挙への介入を働きかけたとされています。特に2007年時の首脳会談の対話録を公開するよう執拗に迫ったとされています。

元前院長と金前長官は、国政調査から逃れようとした挙句、命令状を受けて渋々出席した聴聞会（8月16日）では証人宣誓を拒否するという暴挙に出ました。また、金議員と権大使の証人召喚は、セヌリ党の頑強な反対で霧散してしまいました。

怒りのキャンドルは全国各地へ

連夜のキャンドル闘争では、数万人が参加して怒りの声を上げています。8月10日におこなわれた第6次キャンドル集会では、ソウルだけでなく釜

山、大田、大邱、蔚山、昌原でも開かれ、全国で10万人が参加しました。これ以降、大都市だけでなく、地方都市や郡や村の単位にまで闘争が拡散しています。また、保守層の強い地域にも広がり、87年の6月民主抗争でも動かなかった天主教の大邱教区からも、時局宣言が出されました。

「KBSも放送せざるをえなくなった」とKBS労組委員長が発言した（第8次集会）ように、これまでこの闘争を無視してきた保守言論もいよいよ取り扱わざるを得ないほどの大きな闘争になったと言えるでしょう。

第9次集会（23日）では、国政調査の不十分な結果を受けて、徹底した真相究明を行う特別検事制度を求める「100万人国民署名運動」を展開することが決定されました。

2013年版維新独裁体制を 宣言した朴政権

保守言論の中核である朝鮮日報は、この闘争に合流した私たちに対して「北朝鮮の統一戦線部と225局の指揮を受ける」と、何ら具体的根拠を示さないまま断言した嘘八百の謀略記事まで載せて、この闘争を歪曲化しようとしています。

朴政権は8月15日、真相究明を要求する学生や6・15南側委員会の街頭行進に放水銃を撃ち鎮圧し、301人を連行するという暴挙に出ました。

さらに、国情院は28日、統合進歩

党の李石基議員らを「内乱陰謀」（刑法）と「利敵同調」（国家保安法）の容疑で逮捕するという公安弾圧に乗り出しました。

この暴挙は、民主主義を徹底して破壊しようとする政治工作であり、国情院事件の真相究明を求める闘いの先頭に立っている進歩民主勢力に対する標的弾圧であり、キャンドル闘争を沈静化させ、進歩民主勢力を分裂・萎縮させるための策動とも言えます。まさに、解体危機に直面した国情院が自らの存立根拠を誇示するためのねつ造劇なのです。

韓国進歩連帯などの20以上の市民社会団体は、「国情院内乱陰謀ねつ造と公安弾圧糾弾対策委員会」を直ちに発足させ、今回のねつ造事件を厳しく糾弾するとともに、強力な対抗闘争を繰り広げ、国情院事件の真相究明のためにさらに高くキャンドルを掲げて闘うことを決意しています。

国情院は、その前身機関も含め、時には歴代の独裁政権を支え、時には米国からの監視役を担ってきた韓国保守勢力の核心とも言えます。国情院が解体されない限り、真の民主主義も実現できないし、国情院の存在自体が自主的平和統一の大きな障害です。そういった意味で、このキャンドル闘争は、韓国社会の核心的課題に挑む闘いとも言えます。あらゆる謀略をはねのけて、国情院の実態を全面的に真相究明し、国情院の解体を勝ち取るために、私たち韓青も立ち上がります。

歌い継ぐ闘争の歴史

平和の風に乗り 歌よ、はばたけ
『노래여 날아가라』

ノ レ ヨ ナ ラ ガ ラ

노래여 날아가라 사람이 사람으로 사는 땅
(歌よはばたけ、人が人として生きる所)
ギクッとした。伸びやかな声の中に、
非常に重い問題提起を感じたからであ
る。

作詞、作曲は윤미진(ユンミジン)。大学生だった 1990 年から民衆歌手として活動を開始。以降<조국과 청춘>、<꽃다지>のメンバーを経てソロ活動に移っていく。彼女の歌は、それまでの民衆歌謡で主流だった「犠牲」「悲壮感」「激励」などのイメージから脱却し、軽快かつ楽観的な印象を与える、90 年代前半からの民衆歌謡を象徴するような歌であった。

この曲が発表されたのは 2006 年。韓

国のイラク派兵に反対して作った曲である。

90年代以降から現在といえば、韓国の民主化と祖国の統一が大きく進展した時代だ。大統領を民衆が直接選べるようになり、南北の首脳が出会い、これまで考えられなかったようなことが次々と実現していった。しかし、その裏では米国の侵略戦争の片棒を担いでいる韓国の姿があり、現在に至っては、民主主義の根本すら揺るがすような不正が政治の中で起こっている。街では職をもたない若者たちが途方にくれている状態である。

本当にこの国は、
人が人として生きる
ことができる社会な
のか？この歌は、私
たちこう問っている

のではないだろうか。

잃어버린 양심의 소리를 찾아 노래여
오 노래여 청춘의 힘을 다해 노래여 날아가라
失った良心の声を取り戻し、青春の力を
捧げ闘う。まさにいま、私たちに突きつ
けられている課題を歌った曲なのだ。



映画紹介

アリラン 2003



この作品は、日本植民地時代の1926年に作られた無声映画「アリラン」のリメイク作品です。監督の羅雲奎（ナ・ウンギョ）氏は36歳の若さで解放前に亡くなってしまいましたが、朝鮮映画界の先駆者、風雲児と評価されています。元のフィルムがないことから、幻の名画として伝説のように語り継がれてきました。

また、この映画で歌われていた「新アリラン」こそが、私たちのよく知る「本調アリラン」の源流だそうです。ほかにも、各地の伝統アリランが全国的に再発掘され、わが民族音楽の発展に大きなきっかけを与えたと言われています。

それを羅雲奎監督の生誕100周年を機に、韓国の李斗鏞監督が中心となって、当時の弁士のレコード説明盤、シナリオ

などの資料を参考にしてリメイク版の「アリラン2003」を完成させました。これまで、南北双方で何度もリメイクされ続けてきましたが、各シーンをこれほど忠実に再現したのはこの作品が初めてとされています。また、完成当時、南北で同時上映された話題作でもありました。

そのリメイク版の上映から10年経ち、この夏、上映会が開催されました。今後の上映会は未定ですが、いずれまた、上映会がおこなわれると思います。DVDでは見られない作品ですので、ぜひ、機会があればご覧ください。

＜あらすじ＞

3・1 独立運動直後の朝鮮の農村が舞台。主人公は運動に参加したことで拷問され、「狂人」となり故郷に戻っていた。故郷は、親日派の悪徳地主が君臨する小さい村。村人たちは不満を押し殺しながら、一生懸命、生きようとする。「狂人」でなければ生きられない。「正気」になると殺される。そんな中、村で大きな事件が起きる。

制作年：2003 年 原作：羅雲奎

監督・脚本：李斗鏞（「避幕」、「糸車よ糸車よ」「桑の葉」他）

出演者：イ・イツキョン（ヨンジン役）、ファン・シンジョン（ヨンヒ役）他

editor's letter

今年は本当に猛暑の夏でした。8月中は連日 35 度越えのうだるような暑さで、もう日本は亜熱帯地域に分類されてもいいんじゃないかと思うほど。『韓青通信』の編集作業のスピードにも影響を及ぼしますよね(笑) この「2013 年秋号」が発刊されるころに少しは涼しくなっていると思いますが、早く本格的な秋を感じたいものです。でも、韓青は 9 月 29 日のハナフェスティバルに向けてさらに熱くなっています。まだまだ残暑が続くそうです。

ちなみに今号の表紙絵は東京本部のT君が作ってくれました。カメラの腕だけでなく、編集の方もなかなかやってくれます。韓青出版の外注先として速やかに登録されましたので、今後ともよしなに。

ご意見ご感想、投稿などお待ちしております。

宛先は → chuo@hanchung.org